

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00905

研究課題名（和文）中国語の書面語における語彙・語法の研究 レアリアによる中国語教育の一環として

研究課題名（英文）A study on lexicon and grammar of Modern Written Chinese

研究代表者

石崎 博志 (ISHIZAKI, Hiroshi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：30301394

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、現代中国語の文語(中国語では“書面語”)が使用されている資料をコーパスとして分析し、その使用状況と言語的特徴を明らかにした。具体的には、法律文書、食品パッケージ、医薬品説明書といった専門分野での文語使用を構文論的・意味的に分析し、さらに比喻表現、プロソディ、告知文のリズムなど、言語の認知的側面に焦点を当てた分析を行った。この研究により、中国語の文語がどのような場で、どのように使われているかといった使用実態が明らかになったことで、中国語学習者が中国語の文語を適切に使用するための指針が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間の総括として2024年1月に『現代中国語の文語』と題した単著を関西大学出版部より上梓した。これまで「レアリアによる中国語教育の一環として」と副題を冠して複数年にわたって発表してきた論文を一冊にまとめて総括したものである。実は、レアリアという実物教材を言語コーパスとした研究は、これまであまりみられなかったが、こうしたこれまで一般的ではない語料を使って中国語の文語について考察できたことは、一定の成果とインパクトがあったと思われる。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to analyze corpora of materials using the written style of modern Chinese (known as "shumianyu" in Chinese) to elucidate its usage patterns and linguistic features.

Specifically, we conducted syntactic and semantic analyses of the written style used in specialized domains such as legal documents, food packaging, and pharmaceutical instructions. Additionally, we focused on analyzing cognitive aspects of language, including metaphorical expressions, prosody, and rhythms in public notices. Through this research, we gained insights into how the written style is used in different contexts, providing guidelines for Chinese language learners to appropriately employ the written style.

研究分野：言語学

キーワード：中国語 書面語 文語 レアリア 義務表現 禁止表現 レジスター 構文

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究は、レアリアと言われる実物教材を使い、中国語の文語教育に資する教材の開発や、レアリアに記される中国語の文法的・語彙の特徴を明らかにするものである。中国語の文語は、文言(古典中国語)でも、口語でもない独立した体系をなし、これまでの研究では文体の違いを前提とした語法研究が提唱されている。

(2)一方において法律、公文書、告知文、商品パッケージなど実際の生活に密着した素材を使った中国語教育が新たな境地を拓いている。申請者もこうした一連の研究の延長線上において、これまで法律と医薬品、公文書、告知文などに書かれる文語の初歩的な分析を行ったが、より体系的・全面的な調査が不足していたと考えられる。

2. 研究の目的

(1) 正書法がない日本語とは異なり、中国語では括弧、標点符号(くぎり符号)などの文語の書き方が厳密に定められており、法律、公文書、契約書、論文、説明書など多くの公的文書に共通して適用されている。しかし、政府が発する公的な文書と、一般の国民に広く伝える中国語の文体には一定の違いがある。例えば国家標準(GB)と商品パッケージの記載事項を比較するとその違いは明らかである。

(2)本研究では、法律と医薬品、公文書、告知文などに書かれる中国語の特徴と比較することで、総合的に中国語の文語の特徴を明らかにし、日本の中国語教育に文語の体系的学習を取り入れることを目的とする。また中国語の文語の特徴を把握するために、どのような要素を備えていれば中国語の文語が反映していると言えるのかという点について考察する。

3. 研究の方法

(1)本研究では、これまでコーパスとして使用されてこなかった資料を使って中国語の文語を考察している。具体的には法律の条文、薬品の能書(説明書)、公文書である国家標準(GB)の文書、商品パッケージの文言、SNSに書き込まれた就職の面接の模範回答、コロナウイルス防止の告知文や貼り紙、小学生から高校生までの作文といったものである。こうした資料から独自にコーパスを作成している。

(2)例えば、中国で発売される食品パッケージは、全て中国の標準規格(GB)に基づいて記載事項が決められているが、本研究においては、包装済の食品の記載事項を定める標準規格(GB)と実際の食品パッケージの記載事項を比較することで、義務や禁止といった事項を中国語でどのように表現しているのかを明らかにする。

(3)また、研究期間で積み上げてきた、法律、公文書、告知文などに書かれる文語表現の特徴を、語彙、文法の観点からまとめる作業を行う。また、小学校1年生から高校3年生までの作文コーパスを作成し、中国語の文語使用がどのように変化をするのかを分析する。

4. 研究成果

(1)本研究期間の総括として2024年1月に『現代中国語の文語』と題した単著を関西大学出版部より上梓した。本研究課題の期間中、「レアリアによる中国語教育の一環として」と副題を冠して複数年にわたって発表してきた論文を一冊にまとめて総括したものである。実は、レアリアという実物教材を言語コーパスとした研究は、これまであまりみられなかったが、こうしたこれまで一般的ではない語料を使って中国語の文語について考察できたことは、一定の成果があっただけでなく、研究の空白を埋めることができたと思われる。この単著はすでに初版の第1刷は完売し、現在第2刷が販売されていることからインパクトがあったと思われる。

(2)法律の文書を分析した研究においては、法律の条文で使用されている文語を構文使用の観点で考察し、その結果、二重目的語構文や受身文など特定の構文が使用されていないことを明らかにした。これは構文においても口語的な構文が存在することを示唆するものである。

(3)また医薬品の能書などを分析した研究においては、副詞や形容詞など曖昧さを含む特定の品詞が使われていないことを指摘した。

(4)食品表示においては、国の機関から生産者に対して軌範を提示する文章である“国家標準”(GB)と、生産者から消費者に対する「お願い」としての商品パッケージに記される文語では、義務表現や禁止表現に明確な違いが観られる。例えば、GBにおいては義務表現に“应当”、禁止表

現に“不应当”や“不得”といった表現が使われるのに対し、商品パッケージの文言においては義務表現に“宜”、禁止表現に“不宜”“不”といった表現が使われていることを指摘している。

(5) SNS に書き込まれた就職の面接の模範回答を分析した研究においては、就職の面接など実際に音声で発話される場面においても文語的な表現が使われていることを明らかにした。これは文語の使用域が、書面のみではないことを実証したものである。これらの分析は、中国語の文語使用の実態と特徴を明らかにし、言語研究に新たな知見をもたらした。中国語の文語は、書面のみならず、フォーマルな場においては口頭でも使用されることを明らかにした。

(6) 小学校 1 年生から高校 3 年生までの中国語母語話者の作文を分析した結果、文語表現が学年の上昇とともに増えることを指摘した。その分析のなかで文語形態素という文語を文語たらしめる表現について考察し、それらを文語利用の度合いをはかる基準を提示したことは学術的な意義があると考えられる。

(7) 本研究を中国語の歴史に位置付けると、中国語の文体は 20 世紀に入り長い時間をかけて口語化してきたことに対し、近年になって再び公的な文書を中心に文語化していることを示したものである。こうした文語化の基礎にあるのは学童期からの作文が学年があがるごとに文語化することであり、高校の高学年の模範作文にはその傾向が顕著に表れている。

<参考文献>

石崎博志『現代中国語の文語』関西大学出版部、2024 年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 石崎 博志	4. 巻 72
2. 論文標題 若年層の作文にみる中国語の文語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 關西大學文學論集	6. 最初と最後の頁 67 104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00027280	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石崎 博志	4. 巻 12
2. 論文標題 食品表示における文語表現 レアリアによる中国語教育の一環として (7)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 279 302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 21
2. 論文標題 Let It GoとJ-POPの翻訳をめぐって : レアリアによる中国語教育の一環として (5)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国言語文化研究	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 15
2. 論文標題 ポライトネス・ストラテジーとしての書面語表現 レアリアによる中国語教育の一環として(6)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 55 - 71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00026539	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 105
2. 論文標題 現代中国語におけるくぎり符号“標点符号”について レアリアによる中国語教育の一環として(3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学文学部論集	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 10
2. 論文標題 疫病対策の比喻と表現 レアリアによる中国語教育の一環として(4)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 59 -78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 91
2. 論文標題 琉球語における漢語語彙の導入	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内田慶市教授 退職記念論文集 文化交渉と言語接触	6. 最初と最後の頁 91 - 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 石崎博志
2. 発表標題 食品表示にまつわるレアリアー標準規格とパッケージ
3. 学会等名 中国語教育学会
4. 発表年 2022年~2023年

1. 発表者名 石崎博志
2. 発表標題 若年層の模範作文にみる中国語文語の変化
3. 学会等名 荒川清秀氏追悼・近代言語接触研究シンポジウム
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 石崎 博志	4. 発行年 2024年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 278
3. 書名 現代中国語の文語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関